

円通院

瑞巖寺の隣にあるこの小さな寺では、かつて仙台藩（現在の宮城県を含む地域）を治めていた伊達家の暮らしぶりや興味関心をより詳しく知ることができます。

円通院は、仙台市の創始者・伊達政宗の孫、伊達光宗（1627-1645）を偲んで 1647 年に建立されました。光宗は仙台藩の第三代藩主となる予定で、祖父のような豊かな才能と影響力を発揮することを囑望されていたとされます。しかし、光宗は 19 歳の若さで亡くなりました。光宗の死因に関しては、他殺だったと考える人もいます。

境内にある石庭は、松島湾の島々を模しています。長年の間に参拝者が行き交いすり減って滑らかになった石段は、重要文化財に指定されている光宗の墓所「三慧殿」へと続きます。建物の中にある厨子には、左右に戦の神を伴い、馬に乗った 19 歳の光宗の木像が安置されています。この厨子の金箔を彩る色とりどりの絵柄は少し風変わり、バラやスペード、クローバー、十字架が当時の西洋美術を彷彿とさせるスタイルで描かれています。このデザインは 1615 年に伊達政宗がローマに送った遣欧史の影響を反映している可能性があると考えられています。

円通院の本堂である大悲亭は、もとは江戸（東京の昔の名称）にあり、光宗が憩いの場として涼風を楽しむのに好んだ場所でした。光宗が亡くなった後、この建物は光宗を偲んで丸ごと松島に移築されました。

あちこちにカエデの木が植えられている円通院の境内は、紅葉の名所です。境内各所では、光宗の厨子に描かれたバラにちなんで造られたバラ園をはじめ、年間を通して多種多様な花々を見ることができます。